

佳作

あんふあん  
選りすぐりグルメ  
5000円相当

変えたいわ  
園児のパワー  
電力に

●京都府京都市  
ペンネーム・きっきーさん(ママ部門)

トーマスと  
言われて悲し  
法令線

●山形県酒田市  
ペンネーム・のんパンマンさん(ママ部門)

「だれが好き？」  
園児は毎日  
総選挙

●愛知県名古屋市 前田恵理子さん(ママ部門)

同じ口!?  
去年は足らず  
今へらず

●愛知県豊田市 佐々木麻衣子さん(ママ部門)

昔なあ…  
5歳の息子  
過去語る

●大阪府堺市 岡本笑里さん(ママ部門)

「もうダメだ…」  
仮病のときは  
名子役

●奈良県大和高田市 岡本由紀子さん(ママ部門)

開かずの間  
家庭訪問  
子が案内

●広島県福山市 豊田仁美さん(ママ部門)

「ねえみてて！」  
あなたは前を  
よく見てて

●東京都多摩市 鎌田亜矢子さん(ママ部門)

「飲みすぎよ！」  
ママごとぐらい  
飲ませろよ

●埼玉県さいたま市 水野教夫さん(パパ部門)

まったくもう!  
気づけばみんなの  
口癖に

●埼玉県さいたま市 坂本直美さん(先生部門)

illustration 松本ぶりっつ

審査員・松本ぶりっつさんから

読んだ瞬間吹き出しました。私も、はきつた時とそうでない時の落差すごかったなあ…。(笑)でも、茶色だろうと、ママは子どもたちのために朝早くからお弁当を作っているんですね。そんな姿が目に見えて、応援したくなりました。



作者から

一人っ子ということもあり、入園当初は他のママに負けじとカラフルなお弁当を作っていました。が、毎朝の忙しさにだんだん手抜きに…。今や、夕食の残りを流用した、筑前煮やカボチャの煮物などの茶色〜い「お父さん弁当」です。

ママ部門賞

商品券3万円分+  
セルカアのみすたままザイン電子辞書  
キヤラ弁が  
当初はカラフル今茶色

●福岡県北九州市 古賀原千子さん

パパ部門賞

商品券3万円分+  
マクドナルド「river 300」  
「パパ上手！」  
息子がイクメン育ててる

●千葉県安房郡 椎木茂圭さん



作者から

息子と二人きりになった休日、一念発起してホットケーキを作ってみることに。息子に「パパ上手! おいしい!」と褒められ、以来、息子の喜ぶ顔が見たくて料理を度々作るようになりました。妻も喜んでいます。

審査員・香川敬さんから

保護者からもよく話題の保育者は、空想遊戯で社交上手ということがよくあります。不公平だよ、とつぶやく保育者の心が表れています。



作者から

男性の実習生が2人来たのですが、そのうち1人はイクメンでした。ママたちは、イクメン君を「よくやってくれてるわ〜」と高評価! でも、実際に一生懸命仕事をしてくれ、子どもからも人気だったのは、イクメンではない子の方。ああ、不公平だなあ…と思ってしまいました。

先生部門賞

商品券3万円分+  
ロイヤル「Lucina(Ax109)」  
イクメン保育者 高評価  
不公平

●埼玉県久喜市 ペンネームにのぞろさん

大賞

商品券5万円分+  
ツインバード「ホームベーカーリーPYD58W」  
好きな人「パパ」「ママ」  
僕「ママ!」「ママ」「嵐!」

●東京都大田区 福武綾子さん



作者から

息子に「パパと僕、どっちが好き?」と聞かれて、つい「う〜ん…嵐かな!」と答えてしまう嵐ファンの私。パパはちょっと怒り気味だけど、息子は最近ハマっています。将来は親子でライブに行くのが夢!

# ようちえん川柳 受賞作はコレ!

この夏に実施した「第3回 ようちえん川柳」。全国のママ・パパ・先生たち延べ3822人から、幼稚園での生活をテーマにした川柳作品が1万2397作品も寄せられました! どれも、クスッと笑える、ジーンとする名作ばかり。3人の特別審査員とあんふあん編集部をうならせた14作品を紹介します。

ママ部門賞 審査員



松本ぶりっつさん

●元・幼稚園教諭という異例の経歴を持つ漫画家。個性豊かな3姉妹の子育ての実体験を描いた「うちの3姉妹」が大ブレイク。今は求春発行予定の新作を執筆中。

みなさん、とにかくセンスが抜群ですよ。川柳という短い文章の中にここまで上手に子どもたちの様子を表現できるなんて! どの作品も、「うんうん」とうなずけるものばかりで、本当に選ぶのが大変でした! みなさんの作品からは、育児の大変さや楽しさ、そして子どもたちへの愛がいっぱい伝わってきて、大笑いしつつも、なんだか心がほっこりした気がします。私ももっと育児を楽しまなくてはいと、改めて思いました。

パパ部門賞 審査員



成田裕紀さん

●厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 職業家庭両立課 課長。男性が育児に参加しやすい環境づくりに取り組む「イクメンプロジェクト」担当。

どの作品も、育児に参加しているお父さんたちが頑張っている様子が伝わってきて、とても楽しく読ませていただきました。お仕事が忙しいせいか、日ごろお父さんと過ごす時間がとれず、少し肩身の狭いお父さんいらっしゃるのでしょ。厚生労働省でも「イクメンプロジェクト」を実施していますが、「ようちえん川柳」への応募などを通じて、これからも、育児を積極的に「イクメン」のお父さんが一人でも増えてほしいと願っています。

先生部門賞 審査員



香川 敬さん

●約8000園の幼稚園の私立幼稚園会が加盟する「全日本私立幼稚園連合会」会長。学校法人 鞠生幼稚園理事長・園長。

今回応募された作品は、どれも共感できて甲乙つけがたく、くすぐりやおかしみが込められた良い句ばかりでした。応募された句の中でも、「参観日」など教諭の誰もが体験することを題材にした句は笑いを誘います。「休日の買い物姿やデートを園児に目撃されてしまった」という句がありましたが、これも教諭の間ではよく話題になる情景で、ハッとすることも、育児を積極的に「イクメン」のお父さんが一人でも増えてほしいと願っています。